

令和2年度 林業試験研究推進計画書

1 課題名	地域に産する黒トリュフの感染苗作出技術に関する研究		
2 研究期間	令和2年度～令和4年度	3 総括責任者	森林経営課 和食 敦子

4 背景と目的

黒トリュフは高級食材として扱われる食用きのこの一つで、樹木の根に菌糸を覆い共生して生活する菌根菌の一種である。国内で消費されている黒トリュフの多くは海外産であるが、日本各地でトリュフの仲間が発見されており、国内産トリュフの栽培化に向けて森林総合研究所を中心に研究が行われている。

当県においては、平成29年に馬路村村内において黒トリュフが確認されており、林業、ゆず、観光以外の新しい産業として黒トリュフ栽培が期待されている。

しかしながら、栽培化に向けた試験を行うためには菌株を保有する必要があるが、菌糸など菌体のみでの保存は難しいとされており、トリュフが根に感染している苗（以下、トリュフ感染苗）の状態での保存および増殖が不可欠である。

本研究では、黒トリュフを増殖し将来黒トリュフ栽培化に関する研究に供するためにトリュフ感染苗を作出する技術を確立することを目的とする。

5 到達目標

- ・感染苗の作出

6 研究年次計画

試 験 計 画		担当者
試験項目・試験内容	試験年度	
1 トリュフ発生地での感染苗作出 1) トリュフ発生地での表面殺菌したコナラ種子の播種・苗育成	(R2～R3)	森林経営課 和食 敦子 黒岩 宣仁 渡辺 直史
2 子実体発生状況の調査 1) 現地の環境データ収集（地温、土壌 pH、降水量） 2) 子実体の発生時期のモニタリング	(R2～R4)	
3 殺菌培地条件下での感染苗作出 1) トリュフ胞子液の散布	(R2～R4)	
4 培土を用いた感染苗作出 1) 感染苗を用いた培土中での菌糸培養 2) 培土からコナラ実生苗への菌糸感染 3) 感染苗から成木への菌糸感染	(R3～R4)	

7 当年度研究実施計画

表面殺菌したコナラ種子をトリュフ発生地に播種し、感染苗を育成する。

無菌ポット環境下で育成したコナラ実生苗にトリュフ胞子液を播種して感染苗作出を試みる。発生地の環境条件を記録し、子実体の発生時期及び熟成時期を調査する。